

読む 三つの

女性の人気職種として、昔はスチュワーデス、次はアナウンサー、昨今は起業家が挙げられています。その風潮が、都市圏の民間の女性起業家育成セミナーは、高額にもかかわらず空席待ち状態です。若手のカリスマ女性起業家も次々に登場し、講演会や出版、マスコミ取材と引っ張りだこになっています。

女性起業家の特徴として、「生活に密着したユニークな視点からビジネスを立ち上げる」「肩書きなど

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

の属性にとられない豊かな人脈をもっている」「女性雇用の比率が高く、女性のライフ・スタイルにあわせた柔軟な雇用形態を生み出す」が挙げられています。これらの特徴が、新たな価値観を創生するという社会的側面をもち、低迷する地域経済の活性化の大きな

女性起業家の時代

起爆剤になると期待されています。

なぜ女性が起業するかという背景のひとつに、「年齢に関係なく働きたい」が上位に挙げられます。現在の企業は、組織の中枢を担う立場での女性の登用が遅れ、昇進の限界で女性が能力を充分にいかせないと感じて

いる女性が多くいます。加えて、育児・出産などの理由で休職することでも、キャリア形成に支障が生じたり、あるいはいったん就業を断念した場合、一段落して再就職しようとしても年齢制限の壁に阻まれ

たりします。また、家庭環境が大きく影響する女性にとつて、自分でスケジュールやライフ・サイクルにあわせた働き方を求めている

境が大きく影響する女性にとつて、自分でスケジュールやライフ・サイクルにあわせた働き方を求めている

ます。これらの要因から、自ら事業を起して経営者となる道を選ぶ女性が増えたのは、女性の選択肢のひとつとして定着してきたのではないのでしょうか。

とところで私は、今、仕事と大学院での女性起業家に関する研究の二足のわらじを履いています。特に最近「女性起業家創出を促す公的支援に関する研究」に非常に興味を持って調査を進めています。それは、あるデータがきっかけで

案内をよく見かけます。社会環境や家庭環境もあるでしょうが、私の経験からも公的支援は、知識も資金も乏しい起業に大きな影響があります。特に1位が都市圏ではなく徳島県と聞くと、石川県の支援環境と何が違うのだろうか？と非常に興味が湧き、研究意欲がそそられます。

しばらくは、この順位と公的支援の関連性を調査研究していくつもりなので、関係する情報提供をお待ちしております。

※インキュベーター 保育器、孵化器の意。ベンチャービジネスを軌道に乗せるまでの施設・機器・資金などの援助を行う場。